

2023年度 学校教育活動に対する学校評価書

聖隷クリストファー中・高等学校

I 目指す学校像

(1) 教育目標

『自分のようにあなたの隣人を愛しなさい』の建学の精神のもと、キリスト教主義学校の特色と魅力に満ちた学校づくりを推進する。

(2) 目標具現化の柱

ア 学校経営の安定化を図り、健全な学校経営を維持することで、充実した教育を提供する。

イ 教職員の資質能力および業務の効率化と多忙化の解消を図る。

ウ 基本的な生活習慣を確立させ、学校の教育活動全体の活性化を図る。

エ 基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。

オ 建学の精神を体得し、豊かな人間性や社会性を育成する。

カ 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。

キ 教育活動全体を通じたキャリア教育を推進する。

ク 信頼される学校となるために、本校の情報を積極的に発信する。

中・高一貫コース

【2023年度の取り組み】（重点目標は太字体で記載）

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	達成状況	評価	意見
ア	安定した学校運営	中学校60人、高等学校定員以上 オープンスクールや説明会における小・中学生への本校の好印象度、大変満足が70%以上。 転退学者、中学校0人、高等学校10人未満。	入試広報 総務 各学年 各教員	C	中学募集では、イベント参加者の70%が満足と回答しているが、入学予定者が23名と厳しいものになった。高校では、イベント参加者が過去3番目に多く、大変満足と回答した参加者は65%となる。定員は満たしたが、英数科の募集は苦戦している。 中学で転退学者を出してしまった。	C	少子化と共に生徒の選択の幅も広がってきており、以前と比べると広域通信に進学する生徒が増加している。不登校生徒や特定の行事に適應できない生徒がいる。カウンセリングや医療につなげたりフリースクールなどの環境を準備したりしている。
		内進生の英数科進学数を25人以上にする。(今年度末) 英数科(定員94人)70人以上を目指す。(来年度)	入試広報 中学校担当教員	D	内進生の英数科進学予定数19名を含め目標数70人には届かなかった。	D	
		ICU、関学、法政、明学、関西、獨協に提携依頼と増数依頼を行う。 更に新規として同志社、青山、明治、中央、立命館等の難関・準難関私大に対し依頼する。	管理職 進路指導	D	提携校・指定校戦略会議を開催したが、継続することができず、上位大学の提携校・指定校開拓につながらなかった。	D	評価は妥当と思える。
		委託業者による提案内容を比較検討し、業者の見直しを行う。自宅外生が安心して生活できる環境を整える。	管理職 総務	B	食事提供業者の見直しにより、来年度(2024年度)から自宅外生に対し専門業者による食事提供を開始する見通しがついた。引き続き自宅外生の生活環境の改善を図っていく。	B	評価は妥当と思える。

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
			評価	達成状況	評価	意見
イ 教職員の資質向上および業務の効率化と多忙化の解消を図る。	各教科全員1回以上の授業参観を実施する。また、他教科の授業を1回以上参観する。両方ともにできたと答える教員100%。	研修 各教科 全教員	A	他教科の授業を見学、評価し合う取り組みは100%であった。教科間で多少温度差はあるものの授業改善につなげる取り組みが深まるよう工夫したい。	A	すぐに結果が出るものではないが、続けていくことで確実に教員の意識が変わってくるので継続するべきである。
	タグライン「誰かの幸せを、自分の喜びに」の実現のため、アクションプラン(テーマ)を意識して取り組んだ教員100%。	研修	A	以前と比べて意識化できている教員は着実に増えている。1月実施のチェックシートでは、ほぼ全員がタグラインを意識して教育活動にあたっている。	A	評価は妥当と思える。
	担当教科全員が関わり、チェック項目に従い、ミスなく行うことができたと答える教員100%。	管理職 入試担当 教科	B	教科ごとにチェック項目を整理し「入試問題作成経過報告書」を作成した。その確認・提出状況は今一つであった。教務サイドでは教科主任と連絡を取り合いミス防止に努めた。	B	評価は妥当と思える。
	各学年・分掌で業務改善・軽減に関する取組1件以上。 「取り組むことができた」と答える教員60%以上。	全教員	D	授業時間数や日課の変更土曜授業の廃止により好影響と悪影響の両面が見られた。非常勤講師の人数削減も相まって全体的にはゆとりがなくなった。業務改善や軽減に対して取り組めたと回答する教員は52%であった。	D	終業時間を守れているかがポイント。仕事を削らないとなかなか終われないのではないかな。業務の精査を重ねて欲しい。

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
			評価	達成状況	評価	意見
ウ 基本的な生活習慣を確立させる。	「さわやかな挨拶ができ、身だしなみに気を付けている」と答える生徒90%以上。 「校則やマナーを守っている」と答える生徒90%以上。 「提出物の期限厳守や与えられた役割を責任もって果たしている」と答える生徒80%以上。 以上のことをしっかりと行動するよう指導している教員100% 委員会活動をしっかり行うことができた。生徒、教員90%以上	生徒指導 各学年	B	挨拶を心がけている生徒90.3% 身だしなみに気を付けている生徒95.1% 校則・マナーを守っている生徒95.7% 委員会活動に参加し、役割を果たしている生徒80.9% 上記のようなことを、生徒に指導していると答えた教員100% 現状は、教師が指導し「直させる・させる指導」が中心となった生徒を受動的にした形となっているが、今後は生徒が能動的・主体的に活動するための「仕組み・仕掛け」を検討していく必要がある。	B	地域で会う生徒はよく挨拶してくれる。地元住民で耳が遠い人だと挨拶されたことに気づかないことがある。 風の強い日に、舞い散らかった草を下校途中の生徒たちが集めてくれたことがあり、嬉しく思った。
	生徒・職員に対して講習会を中学2回、高1を1回以上行う。 ネット依存調査を1回以上行う。 「情報モラルに注意している」と答える生徒100%。	生徒指導	B	情報・モラルに注意している生徒97.7% NPO「e-Lunch」及びKDDIから講師を招聘し、中高生向けのネット安全教室を実施した、ネット依存調査は実施負担が大きく十分な活用できないので今年度は実施を流したが、今後は別方法を検討したい。	B	評価は妥当と思える。
	毎朝タブレットにて回答100%。 「欠席・遅刻・早退をしないように努力している」と答える生徒90%以上。 毎日朝食摂取95%以上。 睡眠時間6時間確保60%以上。	全教員 保健	B	毎朝タブレットにて回答は85%以上、「欠席・遅刻・早退をしないように努力している」と答える生徒は90%以上、毎日朝食摂取はアンケートから約90%であった。睡眠時間6時間確保はアンケートから約73%。 毎朝のタブレットによる健康チェックを忘れる生徒がいるため、習慣化させたい。	B	評価は妥当と思える。

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	達成状況	評価	意見
エ	基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。	「興味・関心や意欲を高める授業がタブレットを用いて行われている」と答える生徒80%以上。 「授業の内容がよく分かる」と答える生徒80%以上。	教務 各教科	B	「興味・関心や意欲を高める…」が93%、「授業の内容がよく分かる…」が87%であった。目標を達成しているように見えるが、学業成績から見た時、実際との乖離が見られるように感じる。実際的な判断ができるようなアンケートを作らなくてはいけない。	B	評価は妥当と思える。
		内容やレベル、進捗等の教員間の差違について、生徒・保護者からの不満の声がなくなるよう、授業改善に取り組む教員が90%以上。	教務 各教科	B	成績処理の方法を図解入りで分かり易く伝えた。観点別評価については感覚や点数だけで付けることがないように、授業で振り返りシートを実施するよう促し、平等に観点別評価が行われるように工夫した。個々で管理しているExcelがどうしてもブラックボックス化してしまうので何らかのガイドラインを示せるとよい。観点別評価が授業改善に繋がるように次年度はもっと工夫が必要である。	B	評価は妥当と思える。
		「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答える生徒が90%以上。	進路指導 各学年 各教科	B	88%の生徒が「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した。年内入試が一般選抜よりも需要が高まる中、大学や受験ごとの傾向を詳細に把握し、生徒に提供する必要がある。また、クラスにより情報差が生じないように工夫する必要もある。	B	評価は妥当と思える。

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	達成状況	評価	意見
オ		「建学の精神や教育方針を分かりやすく伝えている」と答える生徒90%以上。	各教職員 宗教	B	79.4%(満足度調査結果の平均値) 日々の礼拝、花の日礼拝、3回の特別礼拝、クリスマス礼拝等を通し、建学の精神を伝える機会としてきた。昨年に続き、特別礼拝(音楽)をサーラ音楽ホールで実施し、好評であった。 学年ホール礼拝については、時間割との調整が難しく、今年度は実施を見送ることとした。	B	評価は妥当と思える。
	建学の精神を体得し、豊かな人間性や社会性を育成する。	聖隷クリストファー生が地域社会の担い手であるという自覚を持ち、自ら地域と関わることで、「『隣人愛』の意識が高まることのできた」と答える生徒が80%以上。	労作 各担任	A	コロナ感染症の制限が緩和されたことで、施設労作が実施でき、他者に寄り添い何事にも自ら意欲的に心を込めて取り組み隣人愛を実践した。中学では、聖隷クリストファー生が地域社会の担い手であるという自覚を持ち、自ら地域と関わることで、「『隣人愛』の意識が高まることのできた」と回答した生徒が91%であった。	A	地域防災において、協力できるシステムづくりが急務であるが、その際、体力のある中高生の協力が欠かせない。協力関係をうまく構築していきたい。
		「ボランティア活動、体験学習、生徒会活動等地域と連携した(地域に貢献した)活動に参加した」と答える生徒 70%以上。	生徒指導 生徒会 労作 各部活動	B	地域活動に参加してきた生徒41.2%であった。部活動単位での地域貢献活動については個人、部活動の自主的参加となっている。一方で、労作では高2で竹林労作を行い、労働の大変さ、仲間と協働して地域貢献することの重要性を学んだ。	B	評価は妥当と思える。

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
			評価	達成状況	評価	意見
カ 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。	交通法規を守っていると答える生徒90%以上。 重大な交通事故ゼロ。 ルール・マナー違反による苦情数の半減。	生徒指導	B	登下校時、交通ルールを守っている生徒99% 重大な交通事故は0件、苦情は例年と比較して多くはなかったが、交通マナーに関するものが数件あった。定例の全校交通安全教室に加え、ヘルメット着用に関する講演を実施し、生徒の交通安全の意識向上に努めることができ、今後警察や地域の学校と協力しながらヘルメット着用を推進していく予定である。	B	根洗町内も自動車の通行量が増えてきた。スマホを持ちながら自転車に乗っている生徒を見かけることがある。高校生もヘルメットを着用した方がいいのではないかと話すことがある。小学校は地域の方が立って見守ってくれている。
	保健室登校、別室登校、不登校の生徒への対応をしっかり行い、転退学をさせないためケース会議等を行い指導する教員100%。	生徒支援 保健 各教員	A	保健室とカウンセラーとの意見交換を毎週実施し、カウンセラーまたは養護教諭と学年の関係教員との連携を図ることができた。	A	評価は妥当と思える。
	支援対象生徒のカルテを整備し、生徒の状況、支援方針や支援計画等の情報を共有する教員100%。	生徒支援	B	毎日のカウンセリングの記録を記載し、各学年主任と情報を共有することができた。一方で、個人カルテの作成が十分ではなかった。	B	評価は妥当と思える。
	避難先や避難経路を把握していると答える生徒80%以上。 地域防災訓練への参加率70%以上の達成。	渉外	B	年2回(4・9月)、小学校と合同避難訓練を実施し、避難経路の確認と防災教育を行った。8月に教員対象の防災研修(HUG)を実施。地域防災訓練の在り方が地域によって大きく異なり実態の把握が困難であった。	B	評価は妥当と思える。

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	達成状況	評価	意見
キ	教育活動全体を通じたキャリア教育を推進する。	「自分の将来の生き方(進路等)について(担任や他の教員からアドバイスを受けて)考えている」と答える生徒90%以上。	進路指導 各学年 中学部	B	生徒の86%が「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した。少なくとも長期休み後には必ず面談を行っている。今後はこれまでに以上に、生徒の夢に寄り添い、伴走する姿勢の構築を目指したい。	B	評価は妥当と思える。
		進路希望分野の探究活動を行い、「読解力及び論述力を身に付けることができた」生徒80%以上。	進路指導	A	85%の生徒が「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した。教材の内容を精査し、必要であれば改善を図る。	A	評価は妥当と思える。
		医療系への進学希望者が、この領域の「仕事について理解することができた」と答える生徒90%以上	進路指導 聖隷P	B	87%の生徒が「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した。聖隷Pの内容を精査し、必要であれば改善を図る。	B	聖隷プロジェクトは、大学併設校の強みである。中学からは、面倒見の良さが感じられる。

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	達成状況	評価	意見
ク	信頼される学校となるために、本校の情報を積極的に発信する。	ホームページの更新回数、行事ごとに100%。 新聞掲載の回数年10回以上。 小・中・地域へのPR年2回以上。	入試広報 総務	B	行事ごとの更新と新聞掲載年10回以上はおおむね達成した。中学生へのPRは達成できたが、小学校・地域へのPR方法を模索する必要がある。	B	このように数値目標を設定すること自体大切なことである。そうすることで変われるのではないか。
		「家庭への連絡や情報提供が適切に行われている」と答える保護者が90%以上。	管理職 総務	A	必要に応じて素早く対応することができている。	A	評価は妥当と思える。
		英数科生徒、重点指定校及び聖隷クリストファー大学、同専門学校に進学した生徒の就職先を把握し、学校説明会やホームページ等にて発信していく。	進路指導 入試広報	B	聖隷クリストファー大学に進学した卒業生の就職先は、毎年、大学から連絡が入り、イベントなどで紹介をしている。重点指定校に進学した卒業生の就職先の調査は不十分であった。	B	卒業生の進路・動向を追いかけるのは大変だが大切なことではないか。自校で行っている教育が正しかったのかの検証となる。

中学校グローバルスクールコース

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
①	特徴ある教育の 充実を図る。	「建学の精神への理解が深まった」と答える教員80%	管理職 宗教	C	研修を継続し、60%の教員が「深まった」と回答し、40%の教員が「やや深まった」と回答した。今後さらに深い理解となるよう研修を継続したい。	C	評価は妥当と思える
		「建学の精神への理解が深まった」と答える生徒80%	宗教 IB教育	C	65.2%の結果となった。次年度以降も学校生活のあらゆる場面で建学の精神が学べるよう特別活動や総合的な学習の時間のテーマを工夫していきたい。	C	評価は妥当と思える
		「GSCの英語イマージョンにより英語力が向上した」と答える生徒80%以上。	全教員	B	86.9%の結果となった。英語力に関する向上実感は概ね認められるものの、特にアウトプットのスキルはさらなる向上が期待されるので、スピーキング力の向上を目的とした活動をさらに増やしていきたい。	B	評価は妥当と思える
		「学習スキルを意識して学習に取り組んでいる」と答える生徒80%以上。	IB教育	C	78.2%の結果となった。本コース独自の取り組みとして各教科で実践し、各生徒が習得していけるよう継続して指導していきたい。	C	評価は妥当と思える
		「探究型の教育を理解・実践できた」と答える教員100%。	IB教育	C	60%の教員が「できた」と回答し、40%の教員が「ややできた」と回答した。教員の理解・実践は進んできているが、今後もワークショップへの参加や教員間の研修を継続していきたい。	C	評価は妥当と思える
		9月にDP候補校申請を行い、年度内に候補校認定を受ける。	IBコーディネーター 管理職	A	10月に候補校認定を受けることができた。次年度はDPの認定校申請を行う予定である。	A	評価は妥当と思える
②	安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。	発達支援に関する研修が生徒支援に役立ったと答える教員80%以上。	管理職 生徒支援	C	20%の教員が、研修が「役に立った」と回答し、80%の教員が「やや役に立った」と回答した。生徒の特性を理解し、適切な指導につなげていくための研修を次年度も継続したい。	C	評価は妥当と思える
		生徒の問題を早期に発見し支援することでできたと答える教員80%以上。	全教員	C	20%の教員が「できた」と回答し、60%の教員が「ややできた」と回答した。生徒・保護者とのコミュニケーションをさらにきめ細かく取り、問題の早期発見と支援ができるよう、教員間の連携を深めていきたい。	C	評価は妥当と思える
		カウンセラーと連携し個に応じた指導・支援ができたと答える教員80%以上。	管理職 生徒支援	C	60%の教員がプラスの回答をしている一方で、40%の教員がマイナスの回答であった。連携の課題を丁寧に分析し改善を図りたい。	C	評価は妥当と思える
		教員間で連携し問題を解決できたと答える教員100%。	全教員	B	80%の教員が「できた」と回答し、20%の教員が「ややできた」と回答した。教員間で役割分担がされているが、教員全体で情報共有することを今後も心掛け、きめ細かい支援を行って行きたい。	B	評価は妥当と思える

中学校グローバルスクールコース

※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	成果目標	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
③	安定した学校運営	学外広報イベントへの本校関係者以外の参加者数延べ人数100人以上。	管理職 入試広報	C	イベント参加者数は70人だった。次年度は英語教育・グローバル教育や中学受験に関する小規模なセミナーなども組み入れ、本校の教育をさらに広く広報していきたい。	C	映像を用いるなどして生徒の成長や体験談などが伝わると良いだろう。
		内部進学率前年度以上。	管理職	C	今年度は88%となり、前年度65%を上回る結果となった。小学校保護者への情報提供を今後も継続すると共に、小学校との連携を深め、児童・生徒が充実した生活を送ることができるよう12年間のグローバル教育を充実させていきたい。	C	卒業後の進路イメージが保護者に伝わると安心につながるだろう。
		「ホームページの内容を見て関心を持った」と答える説明会参加者10人以上。	入試広報	D	ホームページのリニューアルを計画していたが、リニューアルまで漕ぎつけることができなかった。変更内容は出来上がってきているので、次年度早い時期に改変ができるよう取り組みたい。	D	国際バカロレアに代表される特徴的な取り組みやグローバルスクールコースの強みをホームページで分かりやすく発信する必要があるだろう。
		GSC説明会参加者総数20人以上（6年生10人以上）、2024年度入学者（内進+外進）30人。	管理職 入試広報	D	説明会の参加者数、入学者数共に目標値を下回った。外部小学校からの受験者は1人だった。（2024年度入学予定者24人）次年度は、英会話スクールへのさらなる広報や、帰国者向けの相談会への参加を計画したい。	D	評価は妥当と思える